

AGENDA

日本での再エネ利用についての国際意見交換ワークショップ：  
再エネ証書、スコープ2基準、消費者の役割について

場所: 全日通会館霞が関ビル7階会議室(〒100-0013 千代田区霞が関3丁目3番地3号)  
日時: 2017年8月31日 13:30 – 17:00  
主催: CDP(担当: 高瀬香絵), RECS International (Jared Braslawsky)

背景

本ワークショップは、再エネの開発と普及促進に関するものです。日本企業やグローバル企業は再エネへの切り替えを進めており、GHGプロトコルスコープ2ガイダンスやCDP、RE100が示す要件(criteria)の重要性が増してきております。本会合では、日本での再エネ電力（グリーン電力）に焦点をあて、企業や組織が利用するにはどうしたらいいかを扱います。

本セミナーは企業などの多くの電気を使う消費者の電力部門における役割に焦点をあてます。国内制度であるJ-クレジットやグリーン電力は重要ですが、自主的な取り組みであり、国際的REC基準(I-REC基準)などの国際基準も同様です。このようなシステム同士をどう関係づけるかについて議論します。本会合の目標は、利用者と専門家が一堂に会し、経験や意見を交わし、調和のとれた日本の電力属性（環境価値）のトラッキングシステムへの着実な一歩を踏み出すことです。本ワークショップは、RECS-InternationalとCDP日本事務局が協働して実現したものです。

13:30 – 13:45 趣旨説明

高瀬香絵 (CDP 日本事務局)

本ワークショップは、日本における属性（環境価値）のトラッキングシステムについて議論し、消費者が再エネを信頼して購入することができる枠組みはどうかを検証するものです。高瀬からは、CDPの役割と、カーボンフットプリントに関係する権利主張（クレーム）が信頼性をもって可能となるように、どのようなことを行っているかについて、議論を展開いたします。そのような観点から、重要なステークホルダーについて確認し、日本における再エネ調達の歴史、そして、将来どのようになると考えているかについて説明します。再エネ進展のために日本の電力システム、そして消費者の役割についても着目します。（上記はRECS-Internationalからの依頼内容です。内容は若干変更の可能性があります。）

13:45 – 14:10 欧州の発電源証明(Guarantee of Origin)と米国のRECシステムについて 英語・逐次通訳

Jared Braslawsky, RECS International

1990年代後半に、電力の消費者選択を可能とする最初の動きがありました。このような仕組みが人気となるにつれて、関係者からの関心も高まり、この枠組みを改善しようということになりました。その結果、電力の最終消費者は、より保護されるようになったのです。地域ごとの属性（環境価値）トラッキングシステムの信頼性はどんどん高まりました。ヨーロッパでは、発電源証明(Guarantee of Origin, GO)であり、米国では州と国の再エネ証書(Renewable Energy Certificates, RECs)がそれにあたります。このような仕組みは、現在欧州と米国において電力の商品選択を支える存在です。このような仕組みがどのようになっていて、GHGプロトコルスコープ2ガイダンスやCDP、RE100におけるのスコープ2算定との関係性はとて重要になってきました。欧州と米国における結果と分析を説明します。

(14:10-14:20 Q&A, 議論)

14:20 – 14:40 消費者の役割と再エネ調達の要求について 英語・逐次通訳

Jules Chuang, Mt. Stonegate Asset Management

グローバル企業において、操業に使うために再エネ電力を調達したいという希望が高まってきています。そうすることで、スコープ2の算定結果の排出量が下がるだけでなく、ステークホルダーやシェアホルダーの意見に沿うためでもあります。企業の電力需要家は、特定の技術、場所、設置方法による再エネを希望するようになってきています。企業は、このようなことができるようになるための基準が、できるだけ標準化されることを希望しています。企業の電力需要家の電力調達における考え方、そして市場のプレイヤーの役割について議論します。

(14:40-14:50 Q&A, 議論)

## 14:50 – 15:05 休憩

### 15:05 – 15:30 国際的 REC 基準(I-REC Standard)の発展 英語・逐次通訳

*Jared Braslawsky, RECS International*

電力のトラッキングについての国際的なベストプラクティスを集める中で、国際的な再エネ証書の基準(I-REC 基準)は、I-REC 規範の文書を発展させてきました。この規範は、国際的に認知された頑健なトラッキングの仕組みを構築する必要がある国の政府やその他のステークホルダーによって、容易に実施可能なものとなっています。より多くの国が国際的な再エネ証書基準に従うようになるにつれて、市場参加者や他のステークホルダーも多くを学習してきました。日本における国際的再エネ証書基準のあり得る役割を決めることは、参加者によるより幅広い内容の議論の一部となるでしょう。I-REC システムの概要と規模について、発表を行います。

(15:30-15:40 Q&A, 議論)

### 15:40 – 16:00 日本の再エネに関わる歴史と今後の展望 英語または日本語

*TBD, IEEJ or CRIEPI*

(16:00-16:10 Q&A, Discussion)

### 16:10 – 16:30 J-クレジットとその背景となる枠組みとその今後 英語または日本語

*TBD, Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) and Ministry of Environment (MOE)*

(16:30-16:40 Q&A, 議論)

### 16:40 – 17:00 参加者による日本の将来のトラッキングシステムについての議論

参加申し込み

<https://goo.gl/forms/JaYosCmycVyi8qU92>

※セキュリティ等の理由でフォームへのアクセスができない方は、下記を高瀬([kae.takase@cdp.net](mailto:kae.takase@cdp.net))までご連絡ください。①氏名②英語での氏名③e-mail④会社・組織名⑤英語での会社組織名⑥懇親会への参加希望(3000円程度の実費の参加費を頂戴いたします)

なお、本ワークショップについては、前半の Jared Braslawsky 氏 Jules Chang 氏の発表については、逐次通訳をお願いしております。それ以外の日本人スピーカーのプレゼンは英語または日本語で実施されますが、通訳はつきませんのでご了承ください。日本語ではなく英語での参加をご希望の方は、事前にお知らせいただければ、ウィスパリング用の機器をご用意いたします。